

LIXIL

> リフォームを取り巻く生活者動向

～住まいをもっと安全で快適に!自然災害から家族を守るリフォーム～

LIXIL

株式会社LIXIL
<https://www.lixil.co.jp/>



地球温暖化の影響もあり、「ゲリラ豪雨」、「台風」、「洪水」、「大規模火災」といった自然災害が驚異を増しています。住まいは暮らしの基盤でもありますが、同時に家族や財産を守る砦でもあります。今回は自然災害から住まいを守る、安全性を高めるリフォームについて解説していきます。

**猛威を増す自然災害。
今までの常識にとらわれない備えを**

日本は四季のある美しい国です。と同時に、地震、風水害、台風、豪雪など、さまざまな自然災害と隣り合わせの国でもあります。そして近年、自然災害の威力が増し、被害が拡大しています。

こうしてみると日本各地でさまざまな災害が多発しているのがわかります。

豪雨、酷暑、冬の豪雪……、そして地震と本当にさまざまな自然災害がありますが、なかでも、夏や秋に備えたいのが「台風」です。

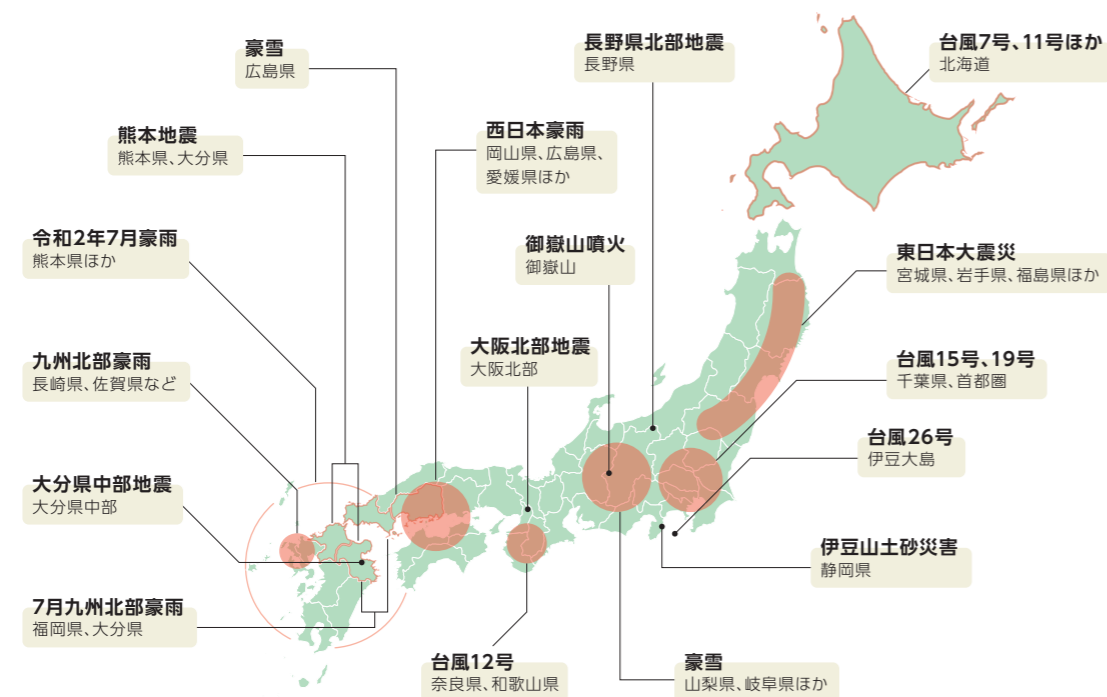
2018年、最大風速54m/s以上の「猛烈な強さ」まで発達した台風は7個にもなり、1977年以降最多を記録しました。2019年の台風発生数は29個、日本

への上陸数は5個と1951年以降では史上3番目の多さとなりました。

かつてない台風を経験した人たちからは、「今までで人生で経験したことがなかった」「今まで大丈夫だったのに」といった言葉が聞かれます。こうした言葉どおり、この数年、想定を上回る規模で台風による被害が日本各地で起きています。今後も甚大な被害を及ぼす台風が上陸する可能性は大いにあり、住まいと命を守る対策が急務になっています。

また、自然災害は台風だけではなくありません。東日本大震災や北海道胆振東部地震、熊本地震などの強い地震も近年、相次いでいます。さらに30年以内にマグニチュード7以上の地震が高い確率で発生すると予測され、私たちは大地震のリスクと隣り合わせの状況で日々暮らしていかなければいけないのです。

○ 近年、日本で発生している自然災害の一部



**台風対策は「窓」から。
養生テープやダンボールは意味がない!?**

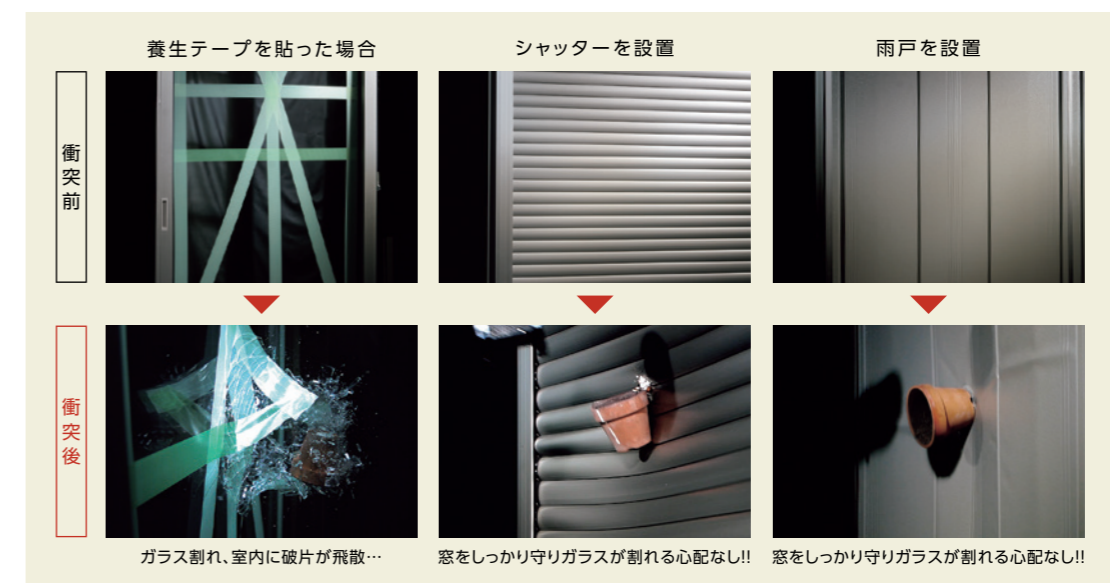
大型台風が上陸すると、風速20m/s以上の暴風が発生することがあります。すると、路上の看板、植木鉢、家の屋根瓦、傘など、何気ないモノが空を飛び、一瞬にして凶器になってしまいます。

それらが窓に当たるとガラスが割れ、破片が飛び散り、室内は大変危険な状態になります。さらに割れた窓から風や雨が吹きこみ、大切な家具やインテリアにも被害が出てしまいます。

また、見落とされがちなのが2階の窓です。窓ガラスが割れ、強風が室内に吹き込むとその勢いで屋根が吹き上がる危険があるのです。

台風が近づくと、「養生テープなどを「米の字」に貼る対策」がおすすめされることがありますが、残念ながらこの方法は強度がなく、窓ガラスの補強にはなりません。窓ガラスは割れてしまうため、一時的に飛散は防いでも、結果として被害が拡大してしまうのです。

だからこそ、シャッターや雨戸で堅牢性を高め、飛来物で窓ガラスが割れる危険性を減らすことが非常に重要なのです。



リフォームで「シャッター」と「雨戸」を付け備える

最近、シャッターをつけていない住まいも増えています。また、築年数の経過している住まいでは、雨戸があっても、「雨戸そのものが重くて開け閉めが大変」、「傷みから、ガタついてしまい動かせない」ということもあるでしょう。そこで思い切って、シャッターの後付けや雨戸の取替えといったリフォームは、防災対策としてもおすすめです。

価格と工期ですが、シャッターの場合、1窓あたり手動が17万円^(*)～、電動が28万円^(*)～となっています。設置にかかる時間も最短60分程度。雨戸は今あるものと取り替えるタイプで1組あたり4万円^(*)～、こちらはなんと30分程度で施工が完了します。どちらも想像しているよりも「ぐっと手軽だな」という感想を持つ人は多いのではないのでしょうか。

電動シャッター+スマートホームでより安全に

利便性と年齢を重ねてからの使い勝手を考え、電動シャッターがおすすめです。LIXILのIoTホームLink「Life Assist 2」で設定すれば、天気予報と連動した自動開閉もできます。深夜でも窓を開けずにスイッチひとつで開閉できるので防犯面でも安心ですし、天気の急変時でも外出先から操作できたりもします。



ほとんどのメーカーに対応。実は手軽な雨戸リフォーム

築年数が経過した住まいには、引き戸タイプの雨戸が設置されている住まいが多いでしょう。すると先に紹介したように「雨戸そのものが重くて出し入れが大変」「経年劣化して思うように動かない」ということが起きようになります。時間や予算を重視するなら、雨戸から雨戸への交換がおすすめです。LIXILでは標準タイプ、防護断熱タイプ、採風タイプの3種から選ぶことができます。たとえば雨戸なら、断熱性能を高めたいなら「防護断熱タイプ」、プライバシーに配慮しながら通風や採光を確保したいなら「採風タイプ」など、用途から選ぶのがよいでしょう。既存のほとんどの雨戸の形に対応しているのもポイントです。もちろん、予算があり、動かしやすさを考えるのであれば、後付けのシャッターへのリフォームもおすすめです。



※こちらの価格は、2020年10月時点において、「リクシルPATTOリフォーム」サービスショップ(青森、千葉、東京、神奈川、愛知、大阪及び福岡の株式会社LI LI トータルサービス直営店)の実勢価格(税抜)の調査をもとに、調査結果の価格データに消費税10%を上乗せし、上下各10%を捨象した、中央帯の80%の価格に基づき千円台を四捨五入し算出した参考価格です。工事の内容は現地調査・配送・取付諸経費を含みます。※この範囲に含まれない見積もり価格及び工事期間もあります。※詳細については現地調査の上、改めてのお見積りになります。※住宅の構造や条件・地域により、商品代・工事費が異なる場合があります。※商品仕様により価格が異なる場合があります。※詳しくは「リクシルPATTOリフォーム」サービスショップにお問い合わせください。

震度6強以上で倒壊の危険も。築年数にあわせた補強が必要。

日本では、大規模地震が発生するたび、住まいの耐震性の基準が改定されてきました。過去、大きく改定されたのは1981年と2000年の2回です。そのため、それ以前か以後のどちらであるかが、住まいの耐震性を考える1つの目安になってきます。

もっとも地震対策が必要なのは1981年以前の「旧耐震基準」(旧耐震)の住まいです。この住まいは10年に一度ほど発生するとされる「震度5強程度」の揺れを想定し基準を策定しているため、震度6以上の地震でも大きな被害が起こりやすくなっています。また、柱と梁で支える日本の伝統的な工法に則って作られていることが多く、壁の量が少なかったり、柱と梁など躯体が老朽化していたりすることもあります。まずは自分でできる耐震診断を行い、ひとつでも不安な項目があればプロによる診断

をうけ、改修や建て替えなどの検討が必要です。

また、1981年から2000年に建てられた築年数が浅い住まいも、最大震度7が2回も発生した熊本地震のような大規模地震で倒壊したケースもあります。同様に耐震診断をしてから、プロの診断を受け、必要な箇所を補強するのがのぞましいでしょう。

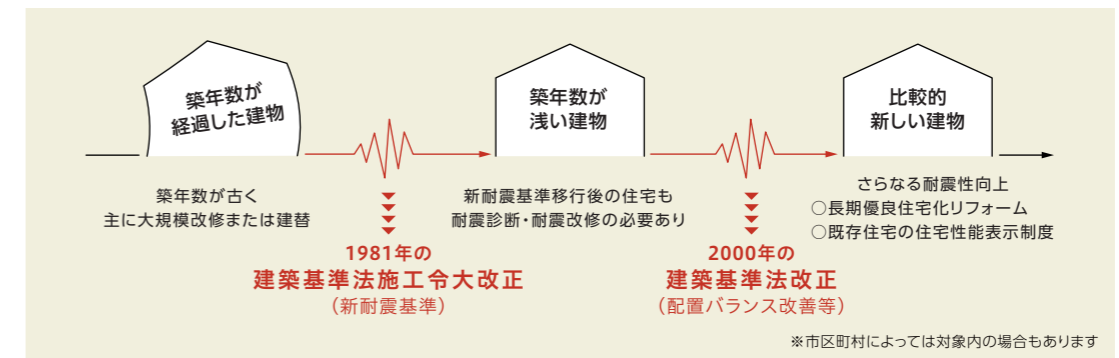
2000年以降の住まいも堅牢ではありますが、劣化対策や定期的なメンテナンスが必要です。また、雨水タンクや蓄電池などといった、備えの重要性もますます増えています。

地震に限らず自然災害はいつ起きるかわかりません。耐震診断や耐震改修の費用助成を行っている自治体もあります。毎日を過ごす住まいだからこそ、安全に快適な暮らしのために早めの対策が必要なのです。



https://www.lixil.co.jp/lineup/construction_method/ararect/seismic_capacity/

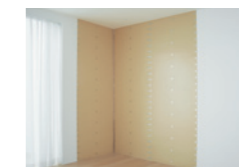
耐震性の低い家は震度6強以上で倒壊の危険も!?自宅の耐震性能を知るには、築年数がひとつの目安に!



「壁の強化」で、地震の揺れに対する抵抗力をアップ

住まいの耐震対策は、壁の質と量が特に重要です。住まいの状況にあわせて選べるよう、LIXILでは安全性と耐震性を高めるリフォーム商品も多数ご用意しています。

アラテクト



いまある天井、床、壁を壊さずに補強できる商品で、仮住まいも必要なく、短時間で耐震改修可能です。特殊クレーン用ケーブルにも使用される高強度繊維「アラミド繊維」で耐震を実現しています。

Tルーフ



一般的な屋根瓦より86%ほど軽量化することで、住まいの重心を低くし、揺れによる影響を低減する屋根瓦です。耐久性に加え、天然石との組み合わせで見た目が美しいのも特長。

LIXILの 減災プロジェクトページもチェック!

今回取り上げた台風や地震以外にも、感染症、猛暑、厳しい寒さ、停電など様々な災害が頻発し、住まいの防災の重要性は年々増えています。こうした対策については、「LIXILの減災プロジェクトページ」でもご紹介しています。

また、LIXILでは、大規模災害発生時に製品の無料点検を行うなど、被災地の復旧のお手伝いをしています。他にも、省エネルギー製品の研究開発にも取り組むことで、大規模な気候変動そのものの発生緩和につなげる活動も積極的に行っております。

災害から家族をまもる、家をつくろう。

+ 減災プロジェクト



<https://www.lixil.co.jp/reform/gensai/>

自然災害の原因でもある 気候変動も住まいから考える

カーボンニュートラルなど気候変動への対策としては、住まいは非常に重要なポイントです。住まいの断熱を高めることにより、使用エネルギーを抑え省エネになります。それだけでなく、光熱費の節約や家族の大切な健康を守るなど、暮らしを豊かにするうえでも非常に重要なのです。

同じく重要なポイントである、創エネ×省エネ×断熱で、家のエネルギー収支をゼロ以下にする住まい「ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)」は、太陽光発電や蓄電池を設置しており、もしもの時の備えにもなるので、今回のテーマである防災の観点からも注目を集めています。



<https://www.lixil.co.jp/shoenesumai/dannetsu/>



LIXIL

LIXILでは、窓や玄関ドアの断熱リフォームに加え、ひと部屋ごとに対応した「ひとへや断熱リフォーム」や、住宅一棟まるごと改修可能な「まるごと断熱リフォーム」などお客様のニーズに応じたさまざまなラインアップをご用意しています。お住まいの家を断熱することによって、家族の大切な健康を守るのと同時に、光熱費やCO2排出量を抑え、「#省エネ住まいで幸せに」を実現します。ぜひこの機会にご自宅の“断熱”を見直してみませんか。LIXILは今後も、地球規模の気候変動問題の解決に向けて、住宅の高性能化を推進し、誰もが願う豊かで快適な住まいの実現に貢献します。

<https://www.lixil.co.jp/shoenesumai/dannetsu/>

